

仕様書5（1）③特記事項に係る施設・イベントの概要

1 いしかわ百万石文化祭 2023 関連イベント

（1）「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川 一麗しき美の煌めき」

石川県立美術館と国立工芸館は今秋、皇室ゆかりの美術工芸品などを収蔵・展示する皇居 三の丸尚蔵館の収蔵品による展覧会を開催します。本展は、石川県で行われる国民文化祭のメイン行事として開催するもので、三の丸尚蔵館の収蔵品のなかから石川ゆかりの作品と、名品の数々を厳選してご紹介します。

三の丸尚蔵館の収蔵品による展覧会はこれまでに各地で開催されていますが、2館合同での開催は、全国初の試みです。また展示作品は約110点という最大規模での展示となります。

会 期： 令和5年10月14日（土）～11月26日（日）

会 場： 石川県立美術館及び国立工芸館

作 品 数： 国宝・重要文化財を含む約110点

主な作品： 伊藤若冲《動植綵絵》（国宝）、高階隆兼《春日権現験記絵》（国宝）、《刀（名物若狭正宗）》、海野勝珉《太平楽置物》、《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》、徳田八十吉（初代）ほか《萬歳楽置物》 など

※その他詳細情報は、近日公開予定

※本展覧会開催に係る関連イベントを計画中、モニターツアーのコンテンツとしての組み込みについては、後日協議のうえ、実施検討のこと。

（2）「御殿の美」展

国宝二条城二の丸御殿や名古屋城本丸御殿等の「障壁画」や「飾金具」などを通して、豪華絢爛な御殿の世界を体感する展覧会です。二条城や名古屋城の障壁画が一堂に会する展覧会は、東京・京都・名古屋以外では初となります。

会 期： 令和5年10月14日（土）～11月26日（日）

会 場： 石川県立歴史博物館

作 品 数： 約100点

主な作品： 「竹林群虎図」襖絵（重要文化財）、帝鑑図[蒲輪徴賢]襖絵 など

※その他詳細情報は、近日公開予定

2 石川県立美術館 VRシアター

CGやVR（仮想現実）などの最先端技術を活用し、国宝などの名品を超高精細の8K映像で紹介します。

場 所： 石川県立美術館 2階 コレクション展示エリア内

※コレクション展観覧券の購入が必要

上映日： 毎日上映（コレクション展示エリアの休館日を除く）

上映作品：

①「美を紡ぐ、そして文化を育む ―加賀前田家から現代へ、そして未来へ―」

金沢の文化の礎を築いた加賀藩前田家の時代から、国立工芸館の移転や金沢城の復元など、現代に至るまでの石川県の美術・工芸文化の継承と発展の歴史をご紹介します。

（約18分）

②「色絵雉香炉 ―悠久の時を超えて―」

約300年離ればなれだった国宝「色絵雉香炉」と重要文化財「色絵雌雉香炉」が、つがいで県立美術館に展示されるようになるまでの物語と、江戸初期の陶芸家・野々村仁清の最高傑作といわれる作品の魅力に迫ります。（約15分）

※上映スケジュールや詳細は決まり次第県立美術館HPでお知らせ予定

3 明治・大正レトロ文化発信拠点のオープン

県では、石川四高記念文化交流館等を活用し、明治・大正レトロ文化の発信拠点として整備します。

本館内には、新たに「レトロ衣装体験室」を整備し、兼六園周辺文化の森のレトロ建築等で、着物と袴の女学生スタイルなどで、衣装体験や写真撮影を楽しめるようにします。また、交流館の入口付近にある「旧門衛所」を、レトロミュージアムショップに改修し、明治・大正期の雰囲気を感じられるオリジナルグッズや、四高の学生が好んだ当時の飲食物などを販売予定です。

オープン時期：令和5年9月下旬

※料金プラン、販売商品等の詳細情報は決定次第、石川四高記念文化交流館HPでお知らせ予定

4 文化施設の夜間開館等

夜の文化観光を推進するため、本多の森エリアにおいて、文化施設の夜間開館をはじめ、建物にデジタルアートを投影するデジタル掛軸等を実施します。

夜間開館日程： 10/14（土）～11/26（日）の間で土曜日を中心に8日間程度

夜間開館施設： 国立工芸館、石川県立美術館、石川県立歴史博物館

そのほかの催し： デジタル掛軸の投影（上記の施設・日程内で数日間）、本多の森公園でのイルミネーション（上記日程のうち3週間程度）、キッチンカーの配置（上記日程のうち土日祝日を中心に配置）